会議名称：平成２７年度６月期古賀市社会教育委員会議
日　　時：　平成２７年６月１６日（火）　１９時～２１時
場　　所：　リーパスプラザ研修棟１０３
主な議題：①第２回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて
　　②平成２７年度社会教育委員の会議の方向性について
傍聴者数：傍聴者なし
出 席 者：加藤委員、平島委員、船越委員、松本委員、角森委員、
　　國友委員、佐々木委員、松末委員、安武委員、
　　（以上委員９名）
　　安部生涯学習推進課長、本田係長、野田、皆田
欠 席 者：横大路委員
事 務 局：教育委員会生涯学習推進課社会教育振興係
配布資料：①レジュメ
　　②第２回古賀市生涯学習笑顔のつどい実施報告
　　③平成２７年度社会教育委員の会議活動予定
会議内容：以下のとおり

松本議長：
６月期社会教育委員の会議を始めます。
笑顔のつどいお疲れ様でした。アンケートにもまとめられていますが、内容としてはすごくよかった、できるだけ多くの人に見てほしかったという前向きな意見が多かったようで、よかったと思っています。みなさんにもいろいろな知恵やアイディアを出して、そして新しい風を吹き込んでいただき、今年度の笑顔つどいができたと思います。
本日の内容ですが、笑顔のつどいの社会教育委員の反省、そして今年度の社会教育委員の会議の方向性を出しあっていきます。
まず、私の方から１件連絡ですが、お手元に新聞のコピーを配布しています。古賀東小学校区で放課後の子ども広場を始めておられます。お母さんたちのウーマンパワーと「地域の子どもは地域で育てよう」という前向きな試みがスタートしており、笑顔のつどいにもつながるところだと思います。いろいろな地域で「行政だけに頼らず、自分たちの力で子どもを育てていこう」という、社会教育･生涯学習が新たに生まれていることを非常にうれしく思っています。
各委員もこのような情報があれば、ぜひ遠慮されずに出し合って学んでいきたいと思います。
では、協議事項に入ります。一つ目の生涯学習笑顔のつどいについて事務局からお願いします。

事務局：
まずは、５月３１日に開催しました「生涯学習笑顔のつどい」についてですが、社会教育委員の皆さんのご協力の下、無事に終えることができました。本当にありがとうございました。
本日はその振り返りということで、当日のアンケートの集計を行いまして、お手元に資料としてお配りしています。
それでは資料にそってご説明いたします。
笑顔のつどいの参加者としてはおよそ２７５名。内訳としては、資料配布が２１５、それからアトラクション参加のダブルディー２６名、コールドルチェ２３名、当日勤務した職員が１１名の合計で２７５名としています。所属団体ごとの参

加者数はアンケートに記載いただいたものから複数回答ではありますが、勘定しております。周知方法は委員、職員合わせて７９４名に行っておりますが、各委員会、協議会での欠席者等もあり、正確な人数ではありません。アンケート回収率についてですが、資料配布数の２１５名から回答数の１１１で回収率を算出しますと５１．６％となっておりますが、きちんと受付をされ所属が確認できる方１７８人では６２．４％となっております。
アンケート内容については、男性４２名、女性２９名、無回答は４０名となっています。無回答が多かったのは、アンケートの中で男女の回答箇所がわかりにくかったのではないかと思います。年齢としては５０代から７０代の参加が多く、１０代、２０代の参加が１名ずつということで、昨年度に比べ、若い方の参加が少なくなっています。参加者の校区についてですが、行政区や校区での回答があったため、すべて校区に統一し勘定しています。古賀西小校区、古賀東小校区、小野小校区、花鶴小校区の順に多く、古賀西小校区と小野小校区はそれぞれ実践報告者であったため、また、古賀東小校区と花鶴小校区はリーパスプラザに近くて参加しやすかったのではないかと思います。所属団体としましては、分館長･分館主事、校区コミュニティ、市役所、議会を合わせました行政関係者の順に多く、分館長･分館主事が多かったのは研修会として位置づけをしたこと､校区コミュニティが多かったのは実践報告に校区コミュニティがあったことではないかと思います。それぞれの内容の評価としましては、オープニングは「よかった」が多く、アトラクションは「とてもよかった」が多かったです。エンディングでは「無回答」が多いですが、機械トラブルで「悪かった」をつけたかったが、選択肢になかったためかと思います。実践報告では『古賀西校区コミュニティ運営協議会』､『谷山区かたりたい』ともに「とてもよかった」となっています。
その他の意見として特に挙げるものとして、「手話の方が暗くて見えづらいところがあった。スポットライトをあてるなど工夫したほうがよいと思った」、こちらについては、前日のリハーサル時に照明を調節するなどしたいと思います。その他には「アトラクションが素晴らしかった」､「更に継続されていくことを楽しみにしている」､「会場の皆さんと『ふるさと』を歌ったことは、参加者が一体となってよかった」「活動が古賀市全体に広がっていけば、古賀市ももっと活性化するのではないでしょうか。つどいにもっとたくさんの人が参加してくださることを祈ります」､「助言者の先生がインタビュー形式で引き出されたのでわかりやすかった」､「エンディング映像はもっと古賀を伝えてほしい」､「エンディングの機械トラブルはＮＧ。この素晴らしい発表をこの場に足を運べなかった人へ伝えられるよう、多くの人が見られるようにしてほしい」､「よいことばかりが表に出てきますが、ご苦労されている話が聞きたかった。その中から自分たちの解決の糸口を見つけてうまくいくようにしたい」､「まだ第２回、このままどんどん進めてほしい」といった意見が多数でした。資料にはありませんが、６月１１日にありました分館長･分館主事代表者会においても笑顔のつどいの話になり、「『古賀市高齢者外出促進事業』の対象事業となるようにお願いしたい」､「後半のモニターの不具合が残念だったが、多くの皆さんが最後まで残っておられた」､「２回目だがよい取組なので継続してほしい」､「総括の話をされた方の助言が今回の会の内容に対して的確であった」という意見もいただいています。

松本議長：
それでは、時間を５分ほどとりますので、アンケートを見て、お配りしている総括資料に感想を書いて、この会議が終わったら事務局に出して下さい。つどいが終わって、第１回目の社会教育委員の会議となるので、思いつくまま書いていただき、来年度の参考資料として活用させていただきたいと思います。いろいろな視点からという事で、「内容面」､「プログラムの構成面」､「会場設営、役割分担・リハーサルなど準備面」､「期日･時刻･会場」など、大きく１つの視点で見ていただいて、いいところ･肯定的評価、そして課題･改善点ということで、特に参加者拡大の秘策がありましたら出してください。最後に皆さんが来年度の笑顔のつどいで活動発表、実践報告で推薦する団体があれば書いていただきたいと思います。メモ程度で構いませんので書いていただいた後、お一人ずつ発表していただいて、次回の会議のときに事務局にまとめたものを出してもらおうかと思っています。今回､まとめるところまでは考えていませんので､ブレインストーミング、

お互いに気軽に出し合う、というかんじでいきたいと思います。それではよろしくお願いします。

（各自、総括資料記入）

松本議長：
それでは、まだ書いていない方は後で記入していただいて、先に口頭で言っていただきたいと思います。アンケートの分析も必要ですので、アンケートについての質問もあれば、よろしくお願いします。

船越委員：
時間配分については何度もシュミレーションしてあり、時間通りに進めることがあってよかったと思います。昨年より時間を短くした分、皆さん「長かった」という感覚はなかったのではないでしょうか。アトラクションについては、２団体がそれぞれによかったと思います。ダブルディーの“若さ”と“元気さ”、コールドルチェの“落ち着いた雰囲気”と会場全体になって歌ったことがよかったと思います。リハーサルについては実践報告を２回行ったことで発表者が「２回できてよかった。だんだん自分も落ち着いてできるようになった。うまくできてよかった」と終了後言っておられたので、リハーサルは大事だと思いました。参加者の拡大については、高齢者外出促進事業を活用できれば･･･、今年はなかったんですかね。

事務局：
対象が６月からで、今年のつどいを５月に行った関係で対象となりませんでした。

船越委員：
それがあったら、少し違ったのかなと思います。分館長･分館主事の研修会という位置づけは必要だと思いました。そして若い世代の参加が少ないということなので、１０代・２０代・３０代をどうにかして呼び込む方法をみんなで話し合って考えていけたらと思いました。活動発表、実践報告の推薦まで記入できていませんが、参加者からこれだけは伝えてほしいということがありましたので、報告します。「ダブルディー、コールドルチェの発表がすごくよかった。だけど、ダブルディーが終わった後に保護者の方が一斉に立たれましたが､ダブルディーの演技が終わるとすぐにコールドルチェの演奏が始まり、そのような時に前のほうで席を立たれたのがとても残念で悲しかったし、参加している方としてもそのような態度を見るのはあまり好ましくなかった。『演技なり演奏中は席を立たない決まり、暗黙の了解』がある中で、小さなお子さんの面倒を見なければいけない保護者の方ではないと思うので､この会が始まる前に保護者の方なりダブルディーの指導者の方に、前もって伝えておくという方向も考えておいたほうがよいのでは」ということでした。以上です。

國友委員：
今、船越委員が言われたようにアトラクション２団体、実践報告２団体、とても内容的に素晴らしいと思っているのは皆さん一緒だと思いますが、去年もあれだけの活動の発表があって、今年もやって、次年度以降の発掘が難しそうな気がします。人選等でかなり時間を要するのではないでしょうか。私は会場係でしたが､参加者が少なかったというのが残念で、私が区の役員をしていた頃は、このような行事ごとの時には、「各組から５名ずつ連れてきて」とか強引に呼びかけをして参加していました。つどいは、見ていただいて聞いていただいて、絶対に損することはないと思うので、その辺を各行政区に割り当てといったら聞こえは悪いですが､「５名前後でも必ず連れてきてください」ということがお願いできれば、４６行政区で２００人越えるので、そういった協力を仰ぐことも必要かと思います。行政区やコミュニティに呼びかけを

やって来年はぜひ満席にしたいと思います。団体の推薦については、推薦ではありませんが小学校が８校区あるので、今年は古賀西小でしたが、毎年それぞれのコミュニティが、自分のところの特徴ある活動を発表してほしいと思います。私もコミュニティで活動していて、古賀西に負けているなぁと思う部分があったので、いいところをまねしてお互いを知っていけば、古賀市のコミュニティ活動がかなりレベルアップしていくのではないかと思うので、ぜひ毎年、コミュニティ活動について発表してほしいです。最後に、会場係だったので思いましたが、最後の司会の方の挨拶のときに、舞台両袖にみんなで並んで、「ありがとうございました」と言うと感じがいいかと思いました。せっかく最後、エンディングで社会教育委員の写真も出るので、さっき写真に出た人だ、とわかるので。

安武委員：
今回２回目だという事で、リハーサルのときからすごく流れがよかったと思いました。特に事務局と昨年度いらっしゃった委員さんとの意思の疎通がとれており、連携ができたことがリハーサルから本番までの流れのよさがあったのかと思いました。来場者が少なかったですが、私は今回しか参加しておらず、昨年のことがわからないんですが、アンケートでもよかったという話が出ているので、参加者から話が伝わって今後、来場者アップにつながっていくのかなと思っています。アトラクションも、静かなコールドルチェさんと動きのある元気なチアダンスでメリハリがすごくよかったと思いました。参加者の拡大に関しては今回のアンケートの集計にあったように、年齢が５０代、６０代が多かったというのは、実践報告がその年代に興味のあることだったのかと思います。例えば、若い世代の方を呼ぶにはそれなりの興味を持つ実践報告をもってこないと、なかなか来場者数にはつながらないのかと思います。大ホールだけの発表ではなく、できるかどうかわかりませんが、ロビーでのイベントのような活動の報告の場所、展示の場所があると、発表した団体だけでなく他の団体のＰＲ、活動の場になるのかと思います。最後に実践報告団体として、幅広い世代に来てもらいたいということで、古賀市の子育てサポートボランティア、０歳の子育てを支援するＩＰＰＯという団体であるとか、福祉会からだと千鳥校区福祉会が子どもたちや高齢者に対して活動をやっているので、幅広い視点での実践報告ができたらと思います。

角森委員：
私は都合で当日参加できなくて申し訳ありませんでした。アンケートを見て、実践報告の中で、昔からの地区と新しい地区の発表があったので、それぞれの地域の実践報告が一緒にできたら交流もできるのかなと思いました。実践報告の団体を多くして欲しいといった意見もあったので、そうなると参加者も少し増えるのではないかと思いました。分館長･分館主事の研修会も兼ねているということでしたが、まちづくりをしている議員さんが新しい選挙の後なのに参加者が９名なので、このような会には議員が率先して参加したほうがよいと思うので、がっかりしました。このように住民が集まって、いろいろな活動をやっているのだからぜひ出席してほしいです。議会も招待されたんですよね。

事務局：
議員の就任後、集まっておられるときに時間をとっていただき、そのときに直接ご招待しました。

角森委員：
まちづくり、というか、古賀市をよくしていこうという団体さんが実践されているので、ぜひ議員さんに参加してほしいです。そういう人たちが、人を連れてくればずいぶん違うと思います。

松末委員：
校区割りにも配慮のいき届いた活動発表･実践報告でした。ダブルディーの発表はよかったと思いましたが、その後に保

護者が抜けていったのは、私は目の前で抜けるのを見てしまったので、私の中で輝きが失われてしまっていて、その後のコールドルチェの歌声に救われ、私のために歌ってもらっているというようなかんじでとても素敵な歌声でした。年齢層からみても、生涯学習というものを体現しているような団体だったので、とてもよい人選だったと思います。古賀西校区のコミュニティについては、自分も千鳥のコミュニティをしていますが、古賀西にはとても及ばない、素晴らしい発表だったと思います。参加者も少ない、と皆さんおっしゃっていますが、あの会場だから少なく見えますが、とても詳しくアンケートも皆さん書いてくださっているので、中身が伝わったからこそ、このアンケート結果につながっているので、自画自賛ではないが、いいつどいだったのではないかと思います。時間も計画通りにしっかり進んでいて、準備のよさが伝わってきた会でした。参加者拡大の秘策になるかわかりませんが、登録してもらっている団体に、早めに写真の提供をお願いするという声かけをして、「つどいをしますので笑顔の写真ください」とか、「活動を紹介されませんか」といった案内を出して、そういったところを使って広めていくといいのではないかと思いました。私が直接かかわっているわけではありませんが、子どもの本の交流会の行事と日程が重なってしまって、悲しいこともあったので、そういったものも、早めに連絡してこちらに取り込むという形を取るとうまく生涯学習活動として成り立つのではないかと思います。ダブルディーについては、船越委員に言っていただきましたが、劇場でマナーというものはしっかり子どもに身につけさせて育ててきたつもりなので、途中で抜けるということにびっくりして、大きな目で、子どもたちを育てるという目で見ていきたいと思いました。教えないことにはそういうものがマナーだとわからないので、指導者さんを通して、「生涯学習の位置づけでダブルディーにも出ていただいてくので、子どもを育てる意味でも、ぜひマナーというものを考えてください」と言うものを伝えてください、と言ったほうがよかったと思います。最後に日程が一番残念で、運動会の兼ね合いもありましたので、ここはどうにかならなかったかと思います。発表団体の推薦ですが、古賀東中が朝勉･朝弁とミニミニ塾でかんばっていらっしゃるし、青柳校区の通学合宿もすごい人数が参加しているようで、あのあたりが元気なのかなと思うので、スポットを当てたいと思いました。

佐々木委員：
良さについては皆さんがおっしゃられているのと同じ意見です。参加者の拡大については、いろいろ意見が出ていますが、知っている人が出れば見に行く、ということがあるのでやはり、いいかと思います。舞台で発表できる場があるというのはすごく魅力的なことだと思いますし。子どもや知った人が終わると出て行くというのはマナー違反ではありますが、学校の授業参観でも、わが子が終われば次の学年、兄弟児の学年を見に行くということがあるので、親御さんの気持ちとしてはよくわかります。今回、運動会の期日と重なるということがあったのですが、調節すれば参加者活動の場、鑑賞の場とかそういう活動の中に参加したいなという人たちをうまくつなぎながら日程を決定していけばいいかと思いました。自分は初めて見て、スケジュールの中で、アトラクションと実践報告との間があいている気がして、参加者は生涯学習である子どもの活動と高齢者の活動ということで見ていたかなと疑問がありました。ただ「子どもが出るから見に行く」ではなく、もう少し「生涯学習ですよ、社会教育の中のこういうのがありますよ」という報告的なものがあるといいのかなと、自分でもよくわかりませんが。実践報告は手順よく、狙いも中身も画像をまじえながら報告されたので、それに携わる人は「ああ、いいなあ。うちもこういう風に改善していこう」という視点であるとか、また「参加したい」という意欲も出たのではないかと思いました。ただ全体を通すようなところがなくて、当日の資料には詳しく書いてありましたが、舞台上でそういうことがなかったので、参加者も「わが子だけ」「知った人だけ」になったのかと思います。事前に会の趣旨であるとか、少し途中で説明しながらであるとか、アトラクションの中にも少し織りまぜながらということが必要だったかと思います。アトラクション、見せものですよね、引きつけるもの。引きつけるもので引きつけているだけではダメじゃないかと思います。生涯学習の中で自分が学んで生きがいを感じていますよ、というものがないと、後の実践報告につながりにくかったのかなと思います。改善点としては対象者を広げる、参加者を広げる、いろいろな年代の人が参加しや

すい日程だとか展示だとかの活動発表の場も増やしていかなくてはいけないということと共に、それをつなぐものは何かなと考え、そこを伝えていくことが必要なのではないかと思いました。

平島委員：
アンケートから見ると、構成、日時に関しては皆さんよかったという意見が多いので、今回の出席者は運動会や地域の行事に関係のない方が多かったのだと思います。日時はどれがベストと決められないので、ベターを選ばなくてはと思います。アトラクションを含めた構成としては、皆さんに喜んでいただけたのではないかと思いますが、わたしは活動発表にダブルディーを推したので、最初にもっと会の趣旨を説明してあげなければいけなかったのかなと思いました。ただ、私も文化協会にいて、観客のマナー向上にいつもつとめていますが、なかなかうまくいきません。あらゆるところで同じ問題が発生しています。余談になりますが、有料の催しものであると離席は少ないですが、無料になるといろいろな行動をされ、有料であると、「お金を払っているから全部見なきゃいけない」と思うようですが、古賀の方は演技中であろうと出入り自由なことが多く、それを止めようとするとかえってトラブルが発生するようなことも多々あります。それは文化協会としても毎回注意していますが、マナーアップ向上に努力しなければいけないと常々思っています。今回は進行がスムーズに行き、逆に早すぎて、途中で助言者の方に時間を取ってもらえるように助言者にお伝えし、助言者の黒田さんにきちっと時間を合わせていただいて、臨機応変な対応に感謝しています。素晴らしい方だなと思って、来年もお願いできたらいいなと思うくらいで、説明もわかりやすかったのではないかと思います。アンケートを見てもそう書いてあるので、大変いい方にお願いできたと思います。課題の参加者の件については、はっきり数に出ているので申し訳ないのですが、文化協会の参加人数が、会議等でも案内しましたが、本当に少なくて、大いに反省しています。来年度は今年の倍以上、２桁になるように周知について頑張りたいです。所属団体というか、周りの方から口コミで集めないとなかなか増えないのかなと思います。行政関係の方は、異動などで代が変わっていくでしょうし、継続性があるのは僕らのような団体ではないかと思いますので、集客に関しては次回努力したいと思います。来年度の発表団体については、前回も話をしたと思いますが、『えんがわくらぶ』をぜひ１回発表していただけたらと思います。今年から聴講生で入れていただいて、古賀東小の小学生と関わる行事には全部出席するようにしています。今現在は、３年生と『お花をどうぞ』という事業で、お花を植えて、６月１８日に独居老人の方のお家にお花を届け、来月には「お花は元気ですか」と訪問するような活動をやっています。昔の生活や昔遊び、七輪起こしなどを１５年間やっておられるので、一度発表してもらい、他の校区も広まってほしいと思っているので、ぜひ紹介したいです。

加藤委員：
皆さんお疲れ様でした。事故もなく無事に終わってよかったと思います。肯定的評価は皆さんが言われたとおりだと思います。黒田先生のまとめも発表の意義付けが明確にできていて、会の趣旨を参加者の方も理解できたのではないかと思います。オープニングの映像も説明くさくなくてよかったと思います。昨年度はパワーポイントを使って口頭で説明をしましたが、それよりもわかりやすかったのではないかと思います。イメージしか伝わらなかった部分もあったかもしれませんが、オープニングの映像は今年のほうがわかりやすくて、好感の持てる映像だったのではないかと思います。課題については、私も参加者が少ないと感じています。「今回は分館長･分館主事の研修会も兼ねるため、コミュニティ中心の実践報告にする」ということで福祉関係の団体がなくて、それなら仕方がないなと思いましたが、ふたを開けてみると分館長･分館主事、区長の参加が非常に少なくて、本当に伝わっていたのか、教育委員会と市長部局である地域コミュニティ室と連携していかないことには、分館長･分館主事、区長の参加は増えていかないと思うので、その辺の課題が、縦割り行政がそのまま出てしまったのかと思っています。その辺を私たち社会教育委員が地域の方に声をかけて、参加者を広めなければならなかったのではないかと、自分でも反省しています。ロビー展示で他の活動の周知もあったほうがよかったかと

思います。若い人の参加が少ないということに関しては、そこをどうするかが、永遠の課題かもしれません。先程から出ていた途中退席の件ですが、市民活動をされている方は何かに特化した活動をされていると思うので、どうしても、それが地域のコミュニティの中でどういった位置づけを持っているかなどの意識にはならないかと思います。他のいろいろなものを犠牲にしているからあれだけのものができるという側面を持っていると思うので、だからこそ、ああいった市民活動と地域コミュニティの活動が一緒にやるということに大きな意味があると思うのですが、その辺をやっぱり理解をしていただく、参加していただくだけではなく、事前のリハーサルや話し合いの段階で代表者の方や保護者の方にも参加していただくということが必要だと思います。そうすると、親が最後まできちんと見ていると、子どもたちもちゃんと見ると思うので、そこが課題だと思います。童謡まつりでも同様ですが、入れ替わり立ち替わりというかんじになっているので。

船越委員：
子どもわくわくフェスタでも同じようになっています。大ホールの会場全体が、出演者が変わると観客が入れ替わります。

加藤委員：
初めて童謡祭りを見たときに「なんであんなに人が替わるの」と本当にびっくりしました。１回ごとに、ざわざわするから、どうしたのかと思ったら、それぞれの出演団体の関係者でした。せめて、第１幕、第２幕ではないですが、ステージ３０分は１ステージで、その間は出入りできない、その後５分休憩で、その時間で出入りをするなど、やる側もそういった工夫をすることもできるかなと思いました。市民活動をしている人の意識は、そういったところにもでるのだなと思いました。参加者拡大の秘策は実行委員会形式にして、地域コミュニティ室の方や福祉課の方に入ってもらうことだと思います。それは昨年度も提案して、とても大変なことだとわかっていますが、つどいが広がっていく方法かと思います。

松本議長：
私からは、皆さんと重ならないところでいうと、コミュニティの発表は、なかなかコミュニティが浸透していないところがあり、古賀西校区でも「コミュニティって何なの？行政区の活動以外で必要なの」と言う方もいらっしゃいますので、「コミュニティって何なの？」と思われている方にとっては学ぶいい機会になったのではないかと思います。『谷山区かたりたい』も、地域のため、というか、志の高さに触れたということは、いろいろな活動をされている方、これからしようとされている方にとって感銘するいい内容だったと思います。アンケートを読んで、黒田先生のまとめについて、また団体の思いや悩みを聞きだすリレートーク、上手だなあ、素晴らしいなと思いました。課題･改善点の参加者拡大の秘訣としては、実行委員会形式がいいのではないかと、これは昨年度の社会教育委員の会議で出たことですが、負担が増えるということと、なかなかまとまりにくく、リスクもあるのではないかということで、今年はしなかったのですが、もうちょっと考えないといけないのかなと思っています。あまり大きな実行委員会はリスクが大きいと思うので、行政関係では地域コミュニティ室や青少年育成課、それから市Ｐ連などのそういった動員力のあるところに入ってもらって、原案はこちらで作成して１，２回くらいの会議で、役割分担の中に入っていただく、というのはどうかなぁと思いますが、皆さんで検討してきたいと思います。２つ目に『笑顔のつどい』のよさを今後広げていく、事後活動･コマーシャル活動のようなことをしていく、ということを考えています。私も小野小学校のＰＴＡの講演会で、自尊感情についての講演会をやってくださいと頼まれたのですが、その中で昨年度のつどいのオープニングビデオを流しながら、笑顔のつどいの素晴らしさを話し、「ぜひ来年度はご参加ください」と話しました。そういった事後活動というか、広報紙なんかも活用し、広げていっていただいたらいいなと思いました。３点目は、高齢者外出促進事業に何とか入れるような時期に設定するか、あちらの時期を１ヶ月早めていただければいいかと思いました。ダブルディーの保護者の移動、これも、１２月に行われる市民のつどいと同様で、当初はやはり、保護者がどっと動き、校長会で話し合って保護者に「発表が終わるまでは見てい

ただきたい。最後まで見ていただきたい」と参加依頼と共にお手紙を出すという対策をやっていました。団体の推薦は、企業関係がまだないので、商工会やまんま実一や、といったところがいいのかなと考えました。あとは、青柳小学校の総合学習で１００ｋｍキャラバンをされていますが、学校としての発表はよくあっても、それを支えているＰＴＡや地域の方たちの視点からの発表がないのでどうだろうかと思いました。それと新聞にもありました、古賀東小校区のコミュニティもいいかと思います。活動発表では、この前玄界高校の文化祭に行ってきましたが、邦楽部というものがありまして、和太鼓とダンスとシンセサイザーその３つのコラボを私も見て、そういったものもいいのかなと思いました。
では、各委員に意見を言っていただきましたので、もう少し時間をとって、意見を言いたいというものがありましたら、お願いしたいと思いますが、先程、國友委員が言われた、終わりの場面でもみんなでお礼をするというのはいいかなと思いました。私も終わったときに、受付のところに立ってご挨拶していましたが、ステージに立って主催者側が皆さんにお礼を言うというのは、双方向の意思の疎通ができていいのかなと思います。最後の古賀音頭を歌詞の字幕を入れて一緒に歌うというのは、最後に一体感が生まれていいかなと思います。
では、他にはないようですので、まだ書き足らないところがあれば書いていただいて、終了後、事務局のほうに提出をお願いします。事務局は個人別ではなく内容別にまとめて整理していただいたらと思います。

事務局：
最後に大ホールの予約についてですが、大ホールは１年前から予約ができるようになっております。そこで、来年度に大ホールを使用するか、それとも来年の夏に利用がはじまります生涯学習センターの多目的ホールを使用するかということを決めていただくようになります。多目的ホールであれば予約はまだ先ですので急ぐ必要はありませんが、大ホールを使用するということになりますと、予約しないとどんどん使用できる日数が少なくなります。ちなみに大ホールは収容８００人で、今回のように照明が使用できます。多目的ホールは３００人収容となります。先程お話にありましたように、他の行事と重ならず、また今年度と同じような日程ですと、５月の２週目は食の祭典、３，４週はまた小・中学校の運動会があり、６月の第１，２週では、いずれかにラブアースがあり、行政区の草刈りも入るのではないかと思いますし、第２週は市民オケがすでに入っており使用できません。第３週はおそらく消防団の操法大会が入るということで、６月に行うとすれば、第４週しかありません。７月以降の実施ですと、まだ日程的な余裕はありますが、７月になるとまた予約が入ってしまいますので、今日、方向性が出ればと思いますが。

松本議長：
６月に行おうとすると、生涯学習センターと大ホールはどちらも使用できますか。

事務局：
６月ですと大ホールしか使用できません。

松本議長：
活動発表を行おうとすると、大ホールということになりますか。

加藤委員：
多目的ホールに舞台もありますか。

事務局：

イメージとしては大会議室のような感じになるかと思います。

松本議長：
大会議室の定員は何名ですか。

事務局：
１００名です。

松本議長：
では純粋に大きさは３倍ということですか。

國友委員：
今年の参加者が少ないといいながら、参加者は２７５名で、参加者は間を空けて座るので、会場係だった私は、仕切りの譜面台を結構動かしていました。それが定員３００名になると窮屈感があるのではないでしょうか。

松本議長：
では会場は大ホールで行うとすると、日程は６月２６日の日曜日ということになりますか。

事務局：
昨年度のつどいの反省で、リハーサルであるとか、音響･照明の調整のために本番当日と前日の２日間使用しましょうということで、今年の日程になりました。それを考えると、つどいが行えるのは６月２６日なのかと思います。

國友委員：
小学校の球技大会が６月末だったかと思いますが。

事務局：
７月に入ると第１週の土曜日は市民のつどいがあります。

國友委員：
球技大会は６月末の土曜日の半日なので、大丈夫かと思います。

事務局：
では、６月２５，２６日の日程で予約ができればしたいと思いますが、６月の日程限定でないといけないものなのか、夏にセンターができて、そちらのイベントとしてつどいを行うものなのか。イベントは、行政の方針として今すぐに「こうなります」と今、ご案内できませんが。例えば、オープニングのイベントをセンターでやっていて、ホールでは笑顔のつどいをやる、ということになると、夏以降になります。

國友委員：
具体的には８月くらいですか。

事務局：
日にちはまだ特定されませんが、センターが建ってからの話になります。
１回目、２回目が５，６月で行われているので、それを定着させようということになると６月になるかと思います。そうれはそれでいいかとも思いますが。

松本議長：
オープニングイベントについては想像もできませんが。イメージがつかめないので。

事務局：
今のところオープニングイベントについてはまったく白紙なので、今は思いつきで話をしているだけです。

松末委員：
せっかく生涯学習センターができるならそれを使ったほうが･･･。

松本議長：
オープニングイベントが見えてこないとなんとも言いようがありませんが。

角森委員：
６月を押さえるだけ押さえるというのは可能ですか。仮押さえをさせていただいたらどうでしょう。

加藤委員：
オープニングイベントを企画するのは何課ですか？

事務局：
生涯学習推進課です。ただ、その他の課との調整が必要となりますので、うちの課の思いだけでできるものではありません。

松本議長：
では、６月の２５，２６日の日程を抑えていただいて、オープニングイベントの兼ね合いでどうなるかわかりませんが、流動的にアイディアとして含めておくということで、よろしくお願いします。
では協議事項（２）の本年度の社会教育委員の会議の方向性について、事務局からお願いします。

事務局：
前回の５月期の会議におきまして、松本議長から皆さんに投げかけをされておりましたが、今年度の会議のテーマにつきまして、それぞれ委員のほうから出していただき、方向性を協議していただきますが、事務局から参考資料をいくつか作成しております。まず、社会教育委員の会議の取組のまとめについて、こちらは平成１５年度から２６年度までをまとめております。平成１５年度から１８年度までのように各年度におきまして提言を出された年、１９年、２０年度のように、２年で１つの提言を出された年、さらには活動報告書という形で出された年もあります。取組に関しましては部会ごとに

分かれての年であったり、平成２３年度のように個人で提言を出されたりといった様々な形で行われています。前年度は７月ごろに提言を出すかどうかの話をされてあったかと思います。こちらについては、委員の皆さんの今後の活動の形態に即した形、またテーマに関して充分な議論を交わすことのできるスタイルで皆さんにご検討していただけたらと思っております。また次に、社会教育委員の会議の今後の予定についてということで、７月から３月までの会議内容・行事をご案内しております。今後の予定ということで、状況によっては変わることもあるかと思いますが、今後の会議を行っていただく上での目安にしていただければと思います。この中で、１月に地域情報交流会というものがありますが、こちらは社会教育委員が情報交換を行うということで毎年、地域へ出向いております。テーマによっては、この交流会の行き先が決まってこようかと思います。例えばテーマに沿った活動を行っている地域に行ってみようということもあるのではないかと思います。地域の情報交流会につきましては１５年以降のリストを紹介しておりますので、参考にしていただければと思います。よろしくお願いします。

國友委員：
平成２５年度に谷山区公民館にお伺いしているのは、今年のつどいの下見ということですか。

事務局：
平成２５年度に谷山区で盆綱のお話をお伺いしたのが委員の記憶に残っていて、今回のつどいへの推薦ということになったのだと思います。また、平成２６年度に花鶴丘３丁目区にお伺いしたのは、第１回の笑顔のつどいで実践報告をしていただき、実際に見に行こうという話になったためです。

松本議長：
今後の活動の方向性ということで、事務局のほうから過去の事績と今年度の大まかな計画、それから、地域情報交流会の事績を出していただきましたが、古賀市の社会教育委員の伝統としまして、社会教育委員のほうでまとめて、社会教育行政と社会教育関係団体とをつないでいくという提言をして、各地域の皆さんの活動や意見を行政に反映させていくという役割が過去の実績を見ればわかるわけですが、それについて、今年はこういったことをみんなでまとめてみたいので、といったことがあればと思いますが、単年度であってもかまわないし、複数年度に１回ということも過去にはあるようです。私も２年前に委員になったときに、毎年提言を出しているということを聞きまして、負担に感じました。特に今は、笑顔のつどいという大きなイベントを抱えているので、過去のように毎年提言を出していくというのは月に１回の２時間の会議では無理ではないかと思っています。今後私たち自身の研究の方向性というか、行政に活かしていきたい、提言したいという内容がありましたら出していただきたいと思います。１月は地域情報交流会が予定されておりますし、いろいろな減免団体とか生涯学習センターの利用についてといった意見を出していただく月もあるかと思います。

加藤委員：
今年度はまだ新しい方が６名と多いですし、私は黒田先生のお話を聞いてすごく勉強になりました。その頃は生涯学習と社会教育って何？という感じだったので、その辺の勉強を自分自身がさせてもらったという感じでしたので、今年度はいきなり提言集というのはハードルが高いかなと思います。笑顔のつどいが新委員にとってはいきなりだったと思うので、もし報告書を出すとすれば、笑顔のつどいのまとめといったものが出せるのではないかと思います。

松本議長：
昨年度は笑顔のつどいの報告と、答申を出したので、それをまとめて報告書を出しましたが。平島委員は何かありますか。

平島委員：
私自身が退職して、まず１番最初に思ったのが、どうしたら地域デビューできるかということで、今回の笑顔のつどいのようにいろいろな活動をやっているけど、どうしたら活動には入れるかな、仲間になれるかなと。そこが非常に難しく、誰かが肩を押してくれればいいけれど、わからないまま引きこもっている方が多いんじゃないかと思います。文化協会もまったく新しい会員が増えない。これだけ対象者が増えているのに何で、と思っています。生涯学習という言葉を聞くとハードルがちょっと高くなりそうなので、もっとなじみのある言葉で、「あなたの地域デビューを応援します」のようなそういうことを、どうしたら地域になじめるのかをもうちょっと勉強したいと思っています。外に一歩出ればすごく世界が広がっていくのでしょうけれど、その一歩をなかなか踏み出せない方が多いんじゃないかと思っています。私が今、考えているのは、古賀市には文化芸術振興条例というのがあって、それを意外と皆さんご存知でないので、もっと皆さんに知ってもらわないといけないんじゃないかと思っています。文化芸術振興条例がある割には非常に文化･芸術に対する、いろんなものが不足しているというか、一言で言えば、何もできていないんじゃないかと思うので。

船越委員：
私は普段は子どもに関わっている仕事だったりボランティアだったり､そして先程も松本委員からお話しがあったように、いろいろな子どもの放課後の活動を、いろいろな団体がしておられるというのがあるので、それでいて、子どもの過ごし方というのは受け皿があっても､子どもが塾やスポーツ団体であるとかで本当に来てほしいところには子どもたちが集まっていない状況があったりするので、子どもたちが本当に必要な場所であるのは何なのか、放課後の過ごし方というようなものを検討、調べることができたらいいなと思いました。

國友委員：
新任でまるで訳がわかっていませんが、６月９日の新聞に福岡市が公の幼稚園を廃止するという記事がありました。ニュース等では待機児童が多いような話を聞いていて、古賀の場合はどうなのかな、と古賀の実態をよく知らないので、たまたま新聞に教育委員会と載っていたのですが、そういったものもひとつの考え方かなと思っています。もうひとつは、古賀市の教育支援を考えたときに、これまでのコミュニティ活動や、こども教室やスポーツをやってというものがメインのようですが、教育そのものを考え、教育のＩＣＴ化をすすめられないかなということで、これは自分の商売根性でやっているわけではないですが、うちの会社が教育のＩＣＴ化の取組をしていまして、そういうところで学力向上に繋げられるものであれば、こういうものもあるぞ、とお配りした新聞をご覧になっているかと思いますが、この記事では教育支援システムというものを実際、佐賀県で取り入れてもらっているものになるので、市にはちょっとなじまないものになるのかと思いますが、例えばタブレットを学校と生徒とで持って、教科書の内容に添った演習問題に取り組んで、解答した時点で採点し、どこが間違っているだけでなく、どこでつまずいているかわかって、その子どもに応じた問題がまた提供されるといった、単なるタブレットでの学習支援システムだけでなくて、今複数の会社がつくっているものを、いろいろな学校で取り入れられているところもあるようなので、古賀市が先駆けてみてもおもしろいのかなと、考えています。

安武委員：
私からは、社会福祉協議会で勤務している関係で、福祉つながりの話になりますが、福祉会というのは、行政区や校区でやっていますが､一番の問題は福祉委員さんがなかなか集まらないことが課題になっています｡社会福祉協議会としては、地域の困りごとは地域で解決していこうというところが１つあるんですが､その中で特に２７年度から介護保険の改訂があり、介護認定の状態によって今まで受けられていたサービスが受けられなくなるという状況になります。その受けられ

ない人たちをどこでみていくかというと、地域でみて下さいとなって、その地域でみるにしても受け皿が必要になります。福祉委員さんや、受け皿となるボランティアさんも高齢であり、若い世代がなかなかやろうとしないということと、どういうことをやっているのかわからないので遠慮したいということがよくありますので、これからだんだん各行政区によっては高齢化率も上がってくるので、せっかく古賀はこれだけいろいろな団体があって、行政ではなくて古賀全体でやっている活動もあるので、ちょっとその団体が自分の住む地域で活動として何かできるような取組のようなものができるといいのかなという気がします。特に福祉会で言うと、若いお父さん、お母さんたちにもうちょっと地域の活動に目を向けて一緒に活動に参加してほしいというところもあるので、そこの結びつきのようなものができればいいのかなという気持ちがあります。

角森委員：
私は子ども子育て会議に加藤委員と入っていて、古賀市は子どもさんが多いということで、来年のつどいの実践報告で推薦されたＩＰＰＯさんなど、子育てに関していろいろなボランティアさんがいらっしゃいますが、私が住んでいる舞の里に関しては子どもが少なくなって、むしろ私たち世代が今度、先程話もあったように退職されたような方が社会教育に参加できないかな、という思いも少しあるんですね。私は先日母がなくなったんですが、赤ちゃんと接したことのない子どもたちが多くなったと言われていますが、人の死に接することのない世代も増えていると思います。昔はお家で葬儀があって、遠い人の死を感じるチャンスがあって、だんだん身近な人の死を体験してというものがありましたが、今は会館でやってしまうので、うちの子供たちを見てそう思いました。年寄りを在宅で、と言われていますが、実際は難しいと思うんですよね。それを私たち世代が動くというか、社会教育の中でつくるのはどうだろうと思って。今までの提言の一覧を見て、提言後どうなったかというものをどこでみたらわかるんですかね。本当にその時代の古賀の課題に対する提言をされているので、私は一覧をぱっと見て、『シニア世代の社会参加』というのが目に付いたんですが、それが本当に提言された後、古賀にどう活かされたのか、それを活かした何かをやっているというところで、地域懇談会をして、またそれをひろめるというようなことはどうなのかなと思いました。過去の提言を振り返る年度もあっていいのかなと。立派な提言をたくさんされているけど、提言はいったいどこで見られるんだろうと思って。とっても無関心だったと思います。広報にも載っていたんですよね。

事務局：
広報には載っていません。

角森委員：
提言はどこへ提出するんですか。

事務局：
教育委員会です。

角森委員：
教育委員会に社会教育委員としての提言。委員から提言されたことで、古賀市がどう動いたかはどこを見たらわかりますか。

事務局：

行政施策であるとかそういうことになるかと思います。

松本議長：
第２次基本計画にも活かされています。

角森委員：
せっかく今までいろいろされていたのに、何も知らなくてごめんなさい。では、まだまだそこの課題がどうなのかということをしてもいいのかなと思います。

松末委員：
漠然としていますが、自分がコミュニティに参加していて、小学生の親の世代は育成会を通してコミュニティに関わる、その後メインで動いていらっしゃる方は６０代後半から７０代、どうかすると８０代まで関わっていらっしゃって、中･高･大学の親世代になるとごっそり抜けています。私がかかわっているのは、本当に珍しく、私の年代でも若い女性だということで可愛がってもらえます。この世代が抜けていて、中学校の保護者までは地域の夜回りでなんとか年に１回、地域とかかわりを持つのですが、子どもが中学生でなくなると、地域を回ることもなく、そういったかかわりも全然なくなっていくので、空洞化している世代、中･高･大学生の保護者をどう取り入れていくのかという課題があるかと思います。２つ目は、私が仕事で、不登校の子どもを持っている保護者の地域の関わり方であるとか子どもへの関わり方のゆがみを見ていると、親を育てていっていないのが原因だろうと思います。学校にあまり行ってなくても、その子を連れて仕事に行ってしまうであるとか、行けない子もいるが行けない原因を作っているのは親御さんかなと感じてしまうので、親育てするには地域で切れずに親を育てていく、移動する親はどうしてもいますが、古賀で親も育てていく、親が子どもを育てていく、その子たちが親になってまた古賀を育ていく、ということを考えると、親育て、ここをＰＴＡなどとうまく連携してできないかなと思います。３つめは、古賀はとても行事が多く、笑顔のつどいも最初はなんだろうと思いました。文化協会のようにリーパスプラザ大ホールで年に何回もあって、千鳥校区でも体験広場であるとか行事がたくさんあっていますが、実際住民の人はどこが主催で、誰を対象としているのか、どれに行ったらいいのかわからない、といった状態で、大ホールでやっているものも年に何回もあり、たくさんありすぎてどれに参加しようか考えることもめんどくさい感じになっているのではないかという気がします。自分は関わっているので参加しますが、それがない人はやはり行かないと思いますので、いろいろな組織が組み合わさってもうちょっと力を合わせてするといろいろな面からでも、いろいろな人たちにも声をかけて有効になるのではないかと思います。せっかく８００人のホールを持っているのに、参加者はどれもこれも３００人くらいで、そこをもうちょっと組み合わせて、スッキリ整理していかないとみんなのパワーがもったいないんじゃないかと思います。最後に、提言については、委員が２年任期ということなので、毎年の提言ではなく、１年は勉強をして、２年かけてじっくり１つの提言をしていくのでもいいんじゃないかと思います。

佐々木委員：
皆さんと重なるところもありますが、今、学校に勤務しているので、保護者の世代とそれを支える世代との意識がすごく離れているなと、不安感の多い世代と、卒業して遠くから温かく見守ってくれている世代を上手につなげていけたらいいなと思います。具体的にどのような活動で、とかいうことは自分も提言とか答申とかでまとめて、どのようにしておけばという手順がぜんぜんイメージがわかないので、今、皆さんのお話を聞きながら大きな施策などにつながっているのだなと、思いました。１０年の計画と、自分がどんな風にすればいいのかという提案ではなく、私の希望のようなものですが、生涯学習センターが新しくできるということで、きっと古賀市としての新しい大きな方向性が打ち出されるのだろうなと

いうことと、自分の社会教育委員としての活動がどうかみ合っていけばいいのかなという疑問ぐらいしかわからなかったのですが、そこの自分が世代をうまくつなげて市の方針と同じような、そんなものがどんな活動かということを皆さんで考えていきたいと思いました。予断ですが、登校の挨拶指導をしていましたら、アンビシャスの方で自分より１０歳か２０歳先輩だと思うのですが、その方がボランティアとして、介護支援のセンターに行っておられるそうで、運動会の話の流れで、高齢者の方も施設のフロアで運動会をしたときに、今まできついといって朝ごはんを食べないような方が、運動会というと杖をつきながら競って活動されるということで、「音楽を鳴らしたり、小学校でしたりした体験というのは生きる力になっていく」という話を聞きました。小学校はいいことをしている、私もそうやって老いて行くのかなと思いました。そういった年代毎をつないでいくというのはとても大切なのだと思いました。そのお話をされたのは７０歳くらいの年代の方だったので、今、各委員の話を聴いて、小学校で活動されている方、家庭や施設で活動されている方、そして保護者の世代が今は離れているのだなあと思いました。

松本議長：
私も考えてみたんですが、ひとつ社会教育委員の会議としてやらなくてはいけないのは、第２次生涯学習基本計画が出されまして、４つの活動目標と方策が出ておりますので、その検証をここでやらなくてはいけないなと思って、具体的には今、皆さんに出していただいた中に入っているのではないかなと思います。子育てであったり、福祉であったり、それから子どもの放課後の居場所であったり、そういったところの啓発の機会であるとか情報を提供したり、いろいろな施設･環境整備をそろえたりであるとか、そういった基本計画の活動目標と方策が本当に、先程、角森委員がおっしゃられたように、どれだけ実効性があるのか、どれだけ行政に携えてやっているのか、そのあたりを皆さんいろんな団体や、地域で役をされている方ばかりですので、そういったところから具体的にボトムアップして行政に提言して行くことが必要かなと思います。皆さんから意見を聞いていて、あまり負担にならない程度にやっていきたいという意欲がとてもたくさん出ておりましたので、今日、出していただいた内容を、次回整理して、みなさんで１本に絞っていくのか、２本に絞っていくのか、今年度、来年度かけた２年計画、そしてそのために必要な研修会で先生をお呼びして助言していただく、そういった方向性を事務局と協議してやっていきたいと思います。

事務局：
先程の角森委員のご質問ですが、それぞれの担当者に確認したわけでも、後追いの調査をしているわけではないので詳しくわかりませんが、前木下議長が以前、「提言をしてもあまり形にならなかったので、ここ数年は行政の方からこういったことを話し合って欲しいというものを出してもらって提言してきた」とおっしゃられていました。

加藤委員：
委員になった時に、私も疑問に思ったことがあって、皆さんが一生懸命話し合われたことが、その返事すら来なくて、実際にその通りにして欲しいと言っているわけではなくて、「それについてはこう考えています、こういう方向性です」という意見でいいと思いますが、そういった返答は自分の経験上ないので、だんだん、やっても無駄じゃないかという気持ちになりました。その中で、前木下議長もそのように考えられて、むしろ、行政がこういうことについて話し合って欲しいと思うことがあるのであれば、そちらを出してもらったらどうかと言われて、この流れになりましたが、やはり今回は、私たちのほうから提言すべきだと思います。

松本議長：
では、ただいま皆さんからいただいたご意見を含めて、事務局のほうと協議していきたいと思う。

それでは、その他について、事務局お願いします。

事務局：
（平成２７年度市町村社会教育委員新任者研修会、人権啓発事業の街頭啓発及び第３５回古賀市同和を考える市民のつどいについて説明。）

松本議長：
では、終わりの言葉を加藤委員にお願いします。

加藤委員：
これで６月期の社会教育委員の会議を終わります。皆さんお疲れさまでした。